

9月28日(水) 本年度第12回(通算2604回)12時30分～ 釧路プリンスホテル  
『米山記念奨学生について』 担当/財団委員会

☆お客様と来訪ロータリアン

・ジャンチブ・ガルバドラッハ様 (モンゴル首都RC 新モンゴル高等学校校長)
・チョブ ジョ・アマルトブシンさん (米山奨学生)      ・小家山 勝君 (弟子屈RC)

☆メイクアップ

9月22日	高橋貢君	(釧路北RAC)
9月24日	能登信孝君	(釧路東RC)

☆出席報告【会員総数66名 免除11名 出席計算に用いた会員数66名】  
本日の出席者 36名 出席率 54.5%

☆ニコニコ献金 (今年度累計 258,000円)

- ・ジャンチブ先生、ようこそ釧路へ
  - ・ジャンチブ先生、アマルさん本日はようこそいらっしゃいました
  - ・ジャンチブ校長、ようこそ釧路北クラブへ
  - ・財団委員会の例会、宜しくお願いします
  - ・誕生日ケーキ待っています
  - ・お久しぶりです
- 能登信孝君  
田中和紀君  
坂入信行君、泰地浩幸君  
斉藤憲一君  
中嶋嘉昭君  
横田國勝君

☆会長挨拶  
《能登会長》



今日は、新モンゴル高等学校校長で、モンゴル首都ロータリークラブの会員でおられる、ジャンチブ・ガルバドラッハさんをおまねきしての例会です。ジャンチブさんは週末旭川で開催される地区大会に出席するため来道しました。釧路に足を運んでいただき、北ロータリークラブで講演をお願いしましたら、快くしき受けていただき有難うございます。

ジャンチブさんは、モンゴルの大学を卒業後、ウランバートルの中学校で教頭まで務められた後、母国に学校を作り、子供たちに良い教育を与え、国を背負っていく人材を育成するという夢を実現すべく、日本に留学しました。山形大学大学院に入られ、山形北ロータリークラブ主催の交流会に参加したことが縁で、米山奨学生になりました。クラブを中心に支援の会である「柱一本の会」が支援され3年制の新モンゴル高校を設立されました。開校10周年の式典に出席された足立パストガバナーから、昨年の10月の米山月間に学校の様子など詳しく報告されております。後ほどジャンチブさんに講演をしていただきますのでよろしくお願ひいたします

☆幹事報告  
《田中幹事》



- ①釧路吹奏楽団より定期演奏会のご案内がきております。
- ②東日観光より2012年国際ロータリー年次大会、バンコク大会参加旅行のご案内が届いております。参加される方は申込書に記入して幹事までお知らせ下さい。一括して送ります。
- ③ローターアクトより 第18回地区協議会スポーツ交流会の案内、そして例会外活動の案内が届いております。
- ④直前年度の地区ホームページCDが柴田直前ガバナーより挨拶状と共に届いております。
- ⑤10月は米山月間ということで財団法人ロータリー米山記念奨学会より豆辞典・クラブ米山記念奨学委員長の手引き・寄付マニュアル・2010年度事業報告書等が届いております。



☆モンゴル首都RC  
新モンゴル高等学校校長  
ジャンチブ・ガルバドラッハさん

#### ★ジャンチブさんの最近の情報

- ・今年の2月にモンゴルのKhree（フレー）ロータリークラブに入会。
- ・今回の震災では、外国人が海外脱出して寄りつかぬなか、3月22日に200キロの支援物資と、KhreeRC会員からの義援金・会長からの親書を持って単身来日。当会事務局へ義援金を託したあと、宮城県名取市へ物資を届けに行ったほか、関係者はじめ新モンゴル高校出身者の安否確認・激励のため、2週間にわたって全国行脚したあと帰国。
- ・2010年には新モンゴル高校10周年を迎え、仙台とウランバートルで式典が開催された。多くのロータリアンも参加。

「人間は一人では多くのことをやり遂げることはできないが、力を合わせると偉業を成し遂げるものだ。このことを人生に学ばされた」シャラグチン・ジャンチブ・ガルバドラッハさんは、新モンゴル高校開校10周年に当たり今しみじみとこの言葉の重みを感じている。

2010年10月5日、ジャンチブさんが自分の夢を実現させて開校した新モンゴル学校創立10周年記念式典が、国会議員や駐モンゴル日本国特命全権大使、日本のロータリー関係者をはじめとする多くの来賓の出席をいただきウランバートルで開催されました。

思い起こせば今から14年前、1995年10月2日にジャンチブさんはモンゴル中等学校の教員から5名を選抜して日本で研修させるプログラムに選抜され日本に旅立ちました。最初の6か月は、東北大学の留学生センターで日本語を学習し、それから猛勉強の末山形大学大学院教育学研究科に入学して修士号を取得。そして、1999～2004年に東北大学大学院教育学研究科博士課程に入学しました。6人家族である彼は、当初一人で来日し研修を行っていましたが、1996年3月からは、家族全員が来日して一緒に暮らすことになりました。日本国の国費留学生であった彼の生活は、日本からの1年間の支給が切れた途端に極端な貧困状態となり、その後、毎日3つのアルバイトをしながら妻との共働きで家族の生活を維持し、自分自身も勉学に励んだのであります。

ロータリーとの係わりは、山形北ロータリークラブが世話クラブとなり米山記念奨学会の奨学金を得たことに端を発します。この時の地区ガバナーが高橋文夫2800地区ガバナーであり、高橋ガバナーは、彼の夢であるモンゴルに日本式教育を行う学校を設立するという活動に際して、ロータリークラブを通して、また、山形県内で組織された「柱一本の会」の会長として多大なる援助をした人物であります。

本日、新モンゴル中等教育学校は開校10周年を迎えることができましたが、これまでに素晴らしい業績をあげており、モンゴルの教育制度を根本的に変えたと言われるくらいの実績を残している学校であります。現在の在籍生徒数は850人。モンゴルでは通常2年間の高等学校教育課程を3年間に引き伸ばし、教育内容の向上と海外の大学への留学を可能にしたのであります。現在、世界中の大学へ留学生を輩出しておりますが、その数は総計160名に登り、日本の大学へは150名の学生を留学させております。そして、この学校の校長兼理事長であるジャンチブさんは、今でもロータリーを通してお世話になった日本の皆さんとの繋がりを通して、日本とモンゴル間の新交と教育振興の架け橋となって活動されている人物であります。

ロータリー米山記念奨学生が自国のモンゴルに帰り、日本式教育を行う素晴らしい学校を設立し、大きな実績をあげていることは、ロータリー米山記念奨学会活動がもたらした素晴らしい成果であり、モンゴルの次代を担う若者の教育に貢献し、日本とモンゴル間の友好に素晴らしい成果を上げていることが確認できた式典でした。



記念撮影



バナー交換



米山記念奨学生  
チョブジョ・アマルトブシンさんと  
記念写真